

令和4年度九州運輸局地域公共交通に関する第三者評価委員会

令和5年2月17日（金）9:00～11:30

アクロス福岡 円形ホール

（1）地域公共交通調査事業（地域公共交通計画策定事業）

【主な個別質問・意見】

（辰巳委員）

- ・目標値については国のガイドラインを踏まえて設定しているか？

（2）地域公共交通調査事業（利便増進計画策定事業）

【主な個別質問・意見】

（行平委員）

- ・社会実験を行った際に、全世帯が参加をしていただければ一番良いが、参加しなかった方、参加できなかった方へのフィードバックはどのように行っているか？例えば、回覧板で結果をお示したり、地方紙の取材を受け、取り組みを認知してもらうと効果が上がってくると思われる。

（梶田委員）

- ・地域の拠点を設ける際、どのように検討しているか？

（3）地域公共交通バリアフリー化調査事業

【主な個別質問・意見】

（梶田委員）

- ・建物、道路、その他施設の状況調査やワークショップにより市民の意見を吸い上げて計画を作成していることは評価できる。
- ・市民アンケートはどのような方を対象としたか？
- ・ワークショップは障がい者や外国人は対象のようだが、高齢者も対象としているか？
- ・心のバリアフリーはまだまだ浸透していない印象。ハード整備だけでなくソフト面の部分も是非計画の中に入れ込んでほしい。
- ・事業化の見通しはできているか？

（大井委員）

- ・ワークショップは市内在住者を対象としているが、来訪者等、外からの目線が入ると良い。
- ・舗装について、引っかかるというコメントはあったが、滑りやすくて困るという意見はあったか？
- ・バリアフリーは転記によっても状況が変わる。

(辰巳委員)

- ・ワークショップを行い、課題を抽出してスパイラルアップしていくのは良いこと。バリアフリーの場合は条件だけで課題を抽出することは、その場その場で状況が異なるため難しく、現場を見ることは重要。
- 一方、ワークショップで全てのエリアをカバーすることは難しい。ワークショップをしたところだけ課題が抽出されるが、全体のバランスはどのように取っていくのか？
- データも使いながら、ある程度エリアを抽出しつつ、重要なエリアはワークショップを実施してみるという作業が重要。

(4) 離島航路運営費等補助事業

【主な個別質問・意見】

(大井委員)

- ・目標効果の達成状況で、増減の記載はあるが数値の記載がない。増減や大小では相対的となり団三者からの評価がしにくい。
- ・地域の一般利用が少ないと観光で交流人口を増やしましょうとなる。悪いことではないが、観光客は一過性なものなので、期待はしすぎないほうが良い。
- ・費用削減に関して、削減できるものは削減して良いが、削減があまり表に走ると後ろ向きな話ばかりになってしまう。
- ・市が航路を運営することで、接続する他の交通のことも一緒に考えることができるきっかけになる。今後は航路だけではなく一体として考え、航路の持続性を考えてほしい。
- ・船の便数を適正化することを考えていく必要があるが、利用状況調査等を行うという議論はあったか？
- ・今年度の協議会開催回数が多かった理由は？どのような議論をしたのか？
- ・今後も協議会は年1回で終わるのではなく定期的に情報共有をし、航路の維持に努めてほしい

(辰巳委員)

- ・減便により運行時刻が変わっていると思うが、離島から本土に来た際にスムーズに乗り継ぎができてきているか？

(梶田委員)

- ・撤退の危機を関係者の連携で乗り越えた事例だが、例えばキーパーソンがいた等はあるか？

(5) 地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統確保維持費国庫補助金）

【主な個別質問・意見】

(大井委員)

- ・目標の達成状況について、達成できなかったところは理由が書かれている。コロナの影響や燃油価格の高騰によるものは避けられないが、今後は言い訳にできなくなってくるので、どういことをやらないといけないか考えないといけない。一方で達成できているところこそ、どうして達成できたのか理由づけが必要で、他地域が取り組む際の参考となる。
- ・具体的な取り組みの内容を評価書等に記載し、どのような効果があったかも関係づけて記載をしてほしい。
- ・幹線補助は系統数が多く、大変であることは承知しているが、地域の実態がわからないコメントになっている。本来は実態に合わせてコメントは違って然るべき。各自治体・事業者と連携し、地域の実態を反映した改善点のコメントをお願いしたい。

(6) 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）

【主な個別質問・意見】

（辰巳委員）

- ・幹線系統の意見と重複するが、なぜ目標を達成できたのか、評価書に記載をお願いしたい。
- ・サブスクチケットと通学定期券の違いは？
- ・九州では乗り継ぎを敬遠される方が多いが、乗り継ぎを前提とした循環線でどれくらい利用があるか？
- ・高校生の利用が増えているが、路線再編の影響が大きいのか？それとも高校生への利用促進策の影響が大きいのか？
- ・コミバスが始まった頃の失敗事例として、街中の施設をつないで、誰も乗らないというものが多かったが、今回の事例は居住地が多いところを走り、乗り継ぎも考慮されている。

（梶田委員）

- ・乗り継ぎ割引はあるか？

（大井委員）

- ・実績のグラフについては、記載を工夫してほしい。
- ・「既存路線の見直し」は新規路線追加により、やり繰りをするためのものなのか？それとも利用の少ない路線の見直しをするものなのか？
- ・路線を追加すると、どこも人手不足なので、事業者等が対応できない場合もある。

(7) 新モビリティサービス推進事業

【主な個別質問・意見】

（梶田委員）

- ・九州を1つにまとめ、各県でMaaSの導入を図っているのは良いこと。

- ・九州内に広がっているが、まだ参加できていない事業者等は今後どのように取り扱っていくか？
- ・利用者にとっては、地域は関係ないので、サービスが九州全体に行き届いてほしい。

(辰巳委員)

- ・インバウンド客は必ずしも「my route」を使っているわけではない。大きな目で見るとデータ (GTFS 等) をしっかり集めることが重要で、データに関しては「my route」だけで囲いこむものではなく、いろいろなところで使ってもらうのが、望ましい形である。その上にあるサービスで差別化を図って共創する形が望ましいと考えている。データ集約にもコストがかかるが、データ共有によるコスト負担、どこで稼ぐのか等、こういったビジネスモデルを描いているか？

(大井教授)

- ・「九州のバス時刻表」等、九州ではすでに構築されているものがあるので、まずはそこに参加できていない事業者を上手く取り込んで、MaaS のプラットフォームに乗せていくと、ビジネスの負担軽減になるのではないか。
- ・「九州のバス時刻表」をよく使っているが、同じ場所にあるのに、事業者によってバス停の名称が異なり検索できないことがある。MaaS 導入に向けて、統一化されると発展性がある。

【総評】

(辰巳委員)

- ・人口減少、燃油価格高騰が続く中、地域公共交通は厳しい環境にあり、どう乗り越えていくかが課題。
- ・さらにコストが掛かるようになり、今後の持続可能な交通システムが見通せないが、知恵を絞っていただきたい。
- ・コロナが収束した際の状況が見通せないが、必要に応じ目標を柔軟に見直していくことも有用と考える。
- ・地域公共交通の維持・確保に向けて重要なポイントは、乗り継ぎをいかに実質的に機能するものにするかである。九州の方は乗り継ぎを敬遠されるが、経済的・物理的にハードルを下げることが大事である。また、「情報」が重要で、デジタルの活用、それ以外の情報提供でスムーズな乗り継ぎ環境を構築できると良い。

(梶田委員)

- ・地道なニーズ調査、ワークショップでいろいろな声をどれだけ拾えるかがポイント。対話をすることも非常に重要である。
- ・どのように住民に認知してもらうか。一方的にホームページに掲載するだけでは難しい
- ・GTFS などのデータは、継続性が重要なので、努力してほしい。

- ・コロナの関係で、来年の目標値をどう設定するか難しい。利用者はコロナ前の水準には戻らないと言われている。今後の状況を見ながら進めてほしい。

(大井委員)

- ・計画策定にあたり、細かい施策は並んでいるが、「一体何のために計画を策定するのか」という視点が抜け落ちているところを最近多く見かける。地域公共交通計画はマスタープランであり、アクションプランではないので、大きくその街自体をどうしていくのか、まちづくりを考えたときに住めるように交通ネットワークを組んでいくことが重要である。細かい施策の羅列では、そこに矮小化されてしまう。
- ・協議、協働、連携をしている事例が多く出てきたが、この場は大事にしてほしい。今後、鉄道も協議の場の上ってくる可能性がある。鉄道に関しては揉めており、日々のコミュニケーション、情報共有ができていないと話が前に進まない。
- ・評価書については、良かったところも理由と分析の記載をしてほしい。悪かったところの理由付けも、人口減少やコロナはいつまでも理由に出来ない。運転者の改善基準告示改正により、今までできていた運行ができなくなる可能性があるが、わかっている話なので、理由にはできない。地域に降りて、現場を見て、事業者の実態を見て、分析していく必要がある。

(行平委員)

- ・今後、離島航路をどうしていくか課題が山積している。離島は人口減少の最先端をいっている厳しい地域である。船員確保も厳しくなっている。特に小さな離島の航路は今後様々な交通を考える上での試金石となる。

(以 上)